

## 第4学年国語科学習指導案

4年1組 30名 指導者 松本 青佳

4年2組 30名 指導者 相川 浩貴

### 1 分科会提案

#### (1) 「よい学習」

中学年分科会第4学年の目指す「よい学習」とは、「～たい！」がいったいな学習である。

#### (2) 「よい学習」を実現するための手だて

##### ①魅力的な単元のゴール設定

児童の「～たい！」を引き出すためには、明確かつ児童の意欲が掻き立てられるようなゴール設定が重要である。その手だてとして「NTB（なぞときブック）展覧会」を単元のゴールにする。（以下※NTB）児童がNTB展覧会に向けて、NTBを作り上げながら、対話を通して自分たちで学習を進めていく。

※NTBとは、物語の事件の証拠となる叙述を集め、謎を解き明かしていくためのワークシートである。

##### ②振り返りの設定

対話を通して学習を進めていくため、毎時間必ず振り返りを行う。児童が何をどのように学んだか、対話を通して自分の考えはどうなったかなど、視点を明確にした振り返りを書き、単元のゴールに向かって学びを積み重ねていけるようにする。また、児童の「～たい！」から始まる授業づくりを目指すため、毎時間の導入時に児童の振り返りを紹介する。

### 2 単元名 目指せ、町ロックホームズ！「友情のかべ新聞」の謎を解こう

**教材名** 教材名「友情のかべ新聞」（光村図書 国語4年下）

### 3 教材観

本教材は、「ごんぎつね」に続く文学的文章であり、今回初めて国語の教科書に載った推理小説である。「ぼく」が推理し、謎を解き明かしていきながら、物語は進んでいく。児童は自然とその推理を検証することへと誘われる。児童がミステリーの楽しさに触れ、推理小説を読むきっかけになる教材である。

### 4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得るのに役立つことに気付くことができる。(3)オ	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 C(1)エ	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	◆読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ	◆「読むこと」において、物語で変化したことや「ぼくのすいり」の証拠となる叙述を見付けている。C(1)イ ◆「読むこと」において、物語で	◆NTB展覧会に向けて、粘り強く対話したり、学習を振り返ったりしている。 ◆NTB展覧会に積極的に参加し、友達のNTBのよさを伝え

		変化したことや「ぼくのすいり」の証拠となる叙述をつなげて、登場人物の気持ちの変化や場面の情景を具体的に想像している。C(1)エ	合おうとしている。
--	--	---	-----------

## 5 児童の実態

### (1) 1組

6月に学習した「一つの花」では、「BAB（ビフォーアフターブック）展覧会を開こう。」という単元のゴールを設定し、対話を通して場面を具体的に想像する学習を行った。(以下BAB)トリオでの伝え合いでは、活発に対話を行っていたが、叙述に立ち返ることが難しい児童が2割程度いた。BABを書く場面では、ほとんどの児童が対話を通して自分が考えたことを書くことができた。一方で、振り返りの場面では、どのように学んだか、伝え合いを通して自分の考えがどのように広がったかについて書ける児童は6割程度であった。自分の学びの過程を言語化することについて学級の中で差が大きい。

### (2) 2組

「一つの花」の学習では、物語の前後の変化を見付け、そこから言えることを伝え合う活動を重点的に行った。伝え合いの様子や振り返りから、同じ変化・違う変化を選んだ児童の考えを聞き、自分の考えと比較している児童は30名中20名程度で、さらに考えを広げている（共通点や差異点を見付けたり、新しい発見をしたりしている）児童は7名程度であった。考えの比較はできても、広げる段階まで到達する児童は少ないことが本学級の実態である。

## 6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
第1次	1	①推理小説を読み、その面白さを知る。 ②「友情のかべ新聞」を読む。 ③物語の変化を見付ける。 ④単元のゴールを確認し、学習計画を立てる。	・登場人物の状況や行動、会話などに着目しながら読み、物語を捉えさせる。(『ぼくのすいり』はまだ提示しない) ・「一つの花」の学習を想起させ、学習計画を立てるようにする。 ◆物語の最初と最後で変化したことを見付けている。【思】☆記述 ◆単元のゴールや学習計画を理解し、NTBを書く活動に意欲をもって取り組もうとしている。 【態】☆記述・発言・観察
第2次	2	⑤「ぼくのすいり」を読み、自分が調べたい叙述を選ぶ。 ⑥調べたい推理の根拠となる叙述を探す。	・「ぼくのすいり」から、自分が推理したい叙述を選ぶ。 ◆第1場面～第4場面を読み、「ぼくのすいり」の根拠となる叙述を結び付けて、考えている。 【思】☆記述・発言

	3 (2組本時)	⑦同じ叙述を選んだ人と考えを伝え合う。	◆「ぼくのすいり」の根拠となる叙述について対話し、登場人物の気持ちの変化や第4場面までの情景を具体的に想像している。 【思】 ☆記述・発言
	4	⑧違う叙述を選んだ人と考えを伝え合い、NTBに書く。	・クイズ形式で伝え合いを行うことで、違う叙述を選んだ人の考えを理解できるようにする。
	5 (1組本時)	⑨違う叙述を選んだ人と考えを伝え合い、NTBに書く。	・「自分の考えがどのように広がったか」の視点で振り返らせる。 ◆違う叙述を選んだ友達の考えを聞き、自分の考えと比較することによって、第4場面までの情景を具体的に想像している。【思】 ☆記述・発言
	6	⑩東君と西君が仲良くなった訳を考え、NTBを完成させる。	・第4・5時で伝え合ったことをもとに、全文を読みながら、二人が仲良くなった訳を考える。 ◆全文から、場面の移り変わり結び付けて、東君と西君が仲良くなった訳を具体的に想像している。【思】 ☆記述・発言
第3次	7	⑪NTB 展覧会を開く。	・NTBを友達と読み合い、単元のまとめをする。 ◆NTB展覧会に積極的に参加し、友達のNTBのよさを見付け、伝え合おうとしている。 【態】 ☆記述・発言
	8	⑫読んでみたい推理小説を見付ける。	・自分が読んでみたい推理小説を選び、紹介カードに書く。 ◆紹介したい推理小説を書き、読書への意欲をもつ。【態】 ☆記述

★単元を通して、「自分の学び方」や「次の学習に向けて」等の視点で毎時間振り返り、NTBに積み重ねている。

7-1 本時の学習 (4年2組: 3/8時間目)

(1) 目標

同じ考えの友達と伝え合い、東君と西君の気持ちの変化や第4場面までの情景を具体的に想像する。

(2) 展開

	○学習活動 C: 想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○単元のゴールを確認し、本時のめあてを立てる。	・見通しをもって学習活動に取り組ませるために、単元のゴールを確認させる。 ・前時の振り返りから、めあてを立てさせる。
	友達と伝え合って、自分の考えをNTBに書こう。	
展開 (30分)	<p>〈伝えタイム〉トリオ 同質グループ1</p> <p>○同じ叙述を選んだグループで交流し、「ぼくのすいり」の根拠について伝え合う。</p> <p>C:「東君と西君は好きな色が違うって書いているから、ここも証拠になると思ったよ。」</p> <p>C:「二人は顔を合わせてから、うつむくって書いてある。よごれを隠して、後ろめたいんじゃないかな。」</p> <p>C:「好きだった赤や青の油性ペンを使わないってあるよ。5行目にはこの色が好きって書いてあるから、やっぱりよごれを隠したのかも。ここも証拠になりそう。」</p> <p>〈書きタイム〉</p> <p>○話し合ったことを基にNTBに自分の考えを書く。</p> <p>〈見タイム〉トリオ 同質グループ2</p> <p>○新しい同質グループで、NTBを見合う。</p>	<p>・対話の時間を確保するために、予めグルーピングしておく。</p> <p>・全文シートを各グループに1枚用意する。</p> <p>・話し合いながら、NTBに考えを書き込ませる。</p> <p>・次時のクイズ大会に向けて、自分の考えを明確にしておくよう、言葉掛けをする。</p> <p>◆「ぼくのすいり」の根拠となる叙述について対話し、登場人物の気持ちの変化や第4場面までの情景を具体的に想像している。</p> <p>【思】☆記述・発言</p> <p>・叙述をつなげて考えられるようにするために、新たな発見をNTBに付け加えさせる。</p> <p>・多様な考えに触れることで次時への意欲を高めるために、様々なNTBを見るよう言葉掛けする。</p>
まとめ (10分)	<p>〈つなげタイム〉</p> <p>○振り返りをする。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>・「文章から想像したこと」「次の学習に向けて」という視点でワークシートに振り返りを書かせる。</p> <p>・次時のNTB展覧会に向けての意欲を高めるために、単元のゴールを再度確認させる。</p>

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>同じ叙述を選んだ児童の考えを聞き、自分の考えと比較している。これにより、「〇〇さんの考えを聞いたら考えが〇〇に変わった。」「〇〇という新しい発見が生まれた。」等、考えを広げている。</p>	<p>同じ叙述を選んだ児童の考えを聞き、自分の考えと比較している。</p>	<p>NTB に自分の考えを書けない児童には、見タイムで友達の NTB を参考にするよう言葉掛けする。</p>

(4) 板書計画

見 タ イ ム	書 き タ イ ム	伝 え タ イ ム	〈学習の流れ〉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                 ◎ 友達と伝え合って、 自分の考えを NTB に書こう。             </div>	友 情 の か べ 新 聞 ◎  は や み ね  か お る
------------------	-----------------------	-----------------------	---------	--	---

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

〈伝えタイム〉

- ◎根拠を明らかにしたり、友達の考えと自分の考えを比較したりできるようにする。
- ・〇〇さんは、推理①を選んだんだね。証拠となる文はどこにありましたか。
- ・ペンの色に関係する文は他にもありましたか。探してみましょう。
- ・〇〇さんの考えと比べてどう思いましたか。考えを伝えてみましょう。

〈書きタイム〉

- ◎話し合ったことと自分の考えを整理して記述できるようにする。
- ・伝えタイムで「やっぱり」や「たしかに」と思うことはありましたか。
- ・なぜそのように書いたのですか。
- ・〇〇さんの考えを聞いて新しい発見があったのですね。NTB に書いてみましょう。

〈つなげタイム〉

- ◎考えを広げたことを振り返らせ、次への見通しをもたせる。
- ・どうしてそう考えましたか。くわしく書いてみましょう。
- ・同じグループで伝え合ってみて、考えが広がったところがありますか。
- ・今日は同じ考えの人と伝え合いました。次の時間はどのような学習にしたいですか。

7-2 本時の学習（4年1組 5／8時間目）

(1) 目標

違う考えの友達と伝え合い、叙述を基に東君や西君の気持ちの変化や第4場面までの情景を具体的に想像する。

(2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○単元のゴールを確認し、本時のめあてを立てる。	・見通しをもって学習活動に取り組みさせるために、単元のゴールを確認する。 ・前時の振り返りから、めあてを立てる。
	違う考えの友達と伝え合って、NTB に書こう。	
展開 (30分)	<p>〈伝えタイム〉異質グループ1</p> <p>○違う叙述を選んだグループでクイズ形式で交流し、「ぼくのすいり」の根拠について伝え合う。</p> <p>クイズ③「新たな心配」について クイズ④「プリンを取り合わなかった。」について</p> <p>C:「ぼくは『新たな心配』のところを選びました。ここの証拠はどこにあるでしょうか。」</p> <p>C:「『二人はいっしょに本を読んだ。』だと思います。今まで一緒にいなかったのに、ずっと一緒にいるから、二人で何かを隠していると思う。」</p> <p>C:「今のところにつながると思うんだけど、『顔をよせて何かを話し合っている。』も、根拠になるよね。今まで仲が悪かったのに、急に一緒にいるのはおかしいよね。」</p> <p>〈書きタイム〉</p> <p>○伝え合ったことを基に NTB に書く。</p>	<p>・対話の時間を確保するために、予めグルーピングをしておく。</p> <p>・児童が対話しやすくするために、グループに1枚全文シートを用意する。</p> <p>・クイズ形式で話し合うことで、他の叙述についての理解を深められるようにする。</p> <p>・児童の対話を大切にするため、全体に広める言葉掛けはしない。</p> <p>・自分の考えの広がりを見える化するために、新たな発見を違う色で付け加えさせる。</p> <p>・考えを共有するために、書き終わった児童は、教室の後方で NTB を見せ合う。</p> <p>◆違う叙述を選んだ友達の考えを聞き、自分の考えと比較することによって、第4場面までの情景を具体的に想像している。</p> <p>【思】☆記述・発言</p>
まとめ (10分)	<p>〈つなげタイム〉</p> <p>○振り返りをする。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>・「文章から想像したこと」「次の学習に向けて」という視点に絞ってワークシートに振り返りを書かせる。</p> <p>・次時の NTB 展覧会に向けての意欲を高めるために、単元のゴールを再度確認させる。</p>

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>違う叙述を選んだ児童の考えを聞き、自分の考えと比較している。これにより、「〇〇さんの考えを聞いたら考えが〇〇に変わった。」「〇〇という新しい発見が生まれた。」等、考えを広げている。</p>	<p>違う叙述を選んだ児童の考えを聞き、自分の考えと比較している。</p>	<p>NTB に自分の考えを書けない児童には、伝えタイムの対話を思い出させる言葉掛けをする。</p>

(4) 板書計画

つなげタイム	書きタイム	伝えタイム	〈学習の流れ〉	友情のかべ新聞⑥ はやみね かおる ◎友達と伝え合って、自分の考えをNTBに書こう。
--------	-------	-------	---------	---

(5) 机間指導の目的 (◎) と言葉掛け (・)

〈伝えタイム〉

- ◎根拠を明らかにしたり、友達の考えと自分の考えを比較したりできるようにする。
- ・証拠は一つではないようですね。「新たな心配」の証拠はどこでしょう？二人の様子が書かれている文章が証拠になりそうですね。
- ・③のクイズで証拠だと思った文章の中に、④のクイズの答えにもなる文章がありそうですね。
- ・「二人はいっしょに本を読んだ。」が証拠だと思ったのですね。同じように、二人の様子が書かれている文章はあるでしょうか。
- ・「新たな心配ごと」と「プリンを取り合わなかった。」の2つのクイズは、つながりがありそうですね。

〈書きタイム〉

- ◎話し合ったことと自分の考えを整理して記述できるようにする。
- ・どこの文章が証拠だと思ったのでしょうか。線を引いたところをNTBに書いてみましょう。
- ・友達が見つけたクイズの答えでも、よいなと思った考えは、自分のNTBに書くとよいですね。
- ・友達と見合って、さらに付け足ししたいことがあれば、NTBに書きましょう。

〈つなげタイム〉

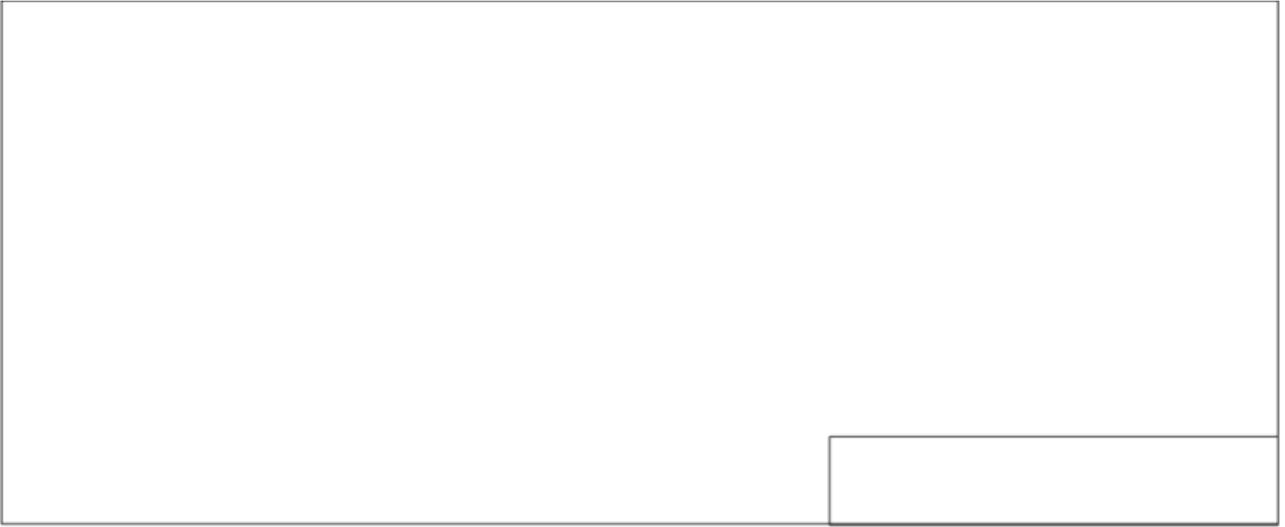
- ◎考えを広げたことを振り返り、次への見通しをもてるようにする。
- ・4つのクイズの証拠を見て気が付いたことを振り返りに書けるとよいですね。
- ・次の時間は、何を学びたいですか。

## 友情のかべ新聞 学習計画

1	学習計画を立てる。
2	すい理したい文章を選ぶ。
3	同じすい理を選んだ人と伝え合う。
4	クイズ形式で、ちがうすい理を選んだ人と伝え合う。
5	クイズ形式で、ちがうすい理を選んだ人と伝え合う。
6	二人が仲良くなったわけを考える。
7	NTB を見せ合う。
8	自分が読んでみたいミステリーをしょうかいする。

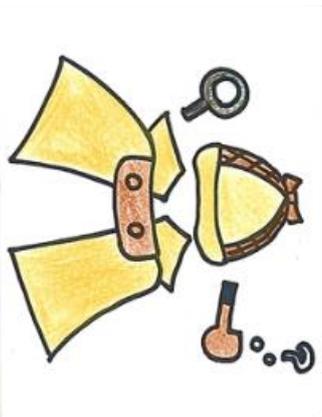


目指せ！町ロックホームズ！  
～「友情のかべ新聞」のなぞを解こう～



四年組 ( )

目指せ、町ロックホーヴズ！  
友情のかげ新聞  
はやみね がおる作



③新しい心配のすい理  
そして、とごれをかしくした二人には、新しく心配なことができた。相手は、先生に言ってしまうのではないかと思っただのだ。それも、「自分では悪くありません。全部、相手が悪いんです。」というように。

①へくのすい理  
記事を書き終わり、音が好きな奥君が、音い油性へつて新聞をふち取るところとする。それを赤が好きな西君がいやがって、止めようとする。

④後ろめだのすい理  
その間、二人は油性へつとさわたりたくなかった。まだ、後ろめだで、しよくよくなくななり、フリをとり合ななかつた。

②かくしたおてれのすい理  
二人は、とつとにへつて新聞でよごれをかしくしてしまつた。あせつたから、ほんの少しだけ、新聞のはしからインクが見えしまつて、いふことに気づかなかつた。

ISSUES ( ) 知照 ( )

--	--	--	--	--	--	--	--	--